

町のイベントと合わせて
トレイルを歩きに来て。
そして泊まって。つて。

ながね としお
長根 俊男 さん

マリンサイドスパたねいち 支配人

昭和26年、岩手県洋野町生まれ。
平成23年4月よりマリンサイドスパたねいちに従事。

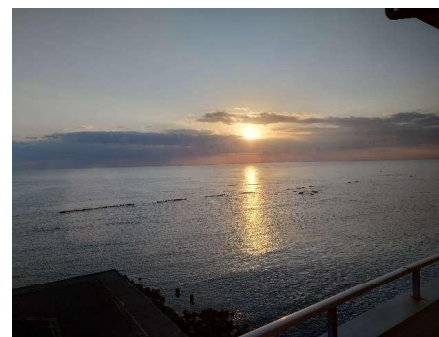
マリンサイドスパたねいちが平成23年4月11日にオープンしました。

東日本大震災の時はリフォーム中でしたが、震災が起きたことにより復興関係の方々が来られることから施設のオープンを早めました。

建物に被害はありませんでしたが、近くの漁港から多くの船が目の前の道路に流れてきて撤去など大変だったことを覚えています。

トレイルとの関わりとして、平成25年に洋野町区間が開通したのと同時にハイカーの宿泊割引サービスを始めました。マリンサイドスパたねいちのホームページはあるもののSNSはやっていませんが、トレイル関係のSNSをみて連泊する外国人のハイカーが最近では増えています。皆さま、あえて和室指定で泊まれるんですよ。

毎年、春頃からハイカーが増えるので、今年も近隣のホテルと連携して呼び込みをしたいです。町の行事もたくさんあるので併せてトレイルを歩きに来て欲しいのと、町内の温泉巡りイベントも今後考えているので、もっともっと泊まりに来て欲しいと思っています。



施設の大浴場からは朝日と共に、
洋野町の海岸の特性を生かした
ウニの「増殖溝」を望むことができます。

アメリカンな雰囲気
町の風景と歩みを
たっぷり味わって

おか りえ
岡 利恵 さん

おちゃっこクラブ／ダイヤモンドヘッド 店主

昭和55年、宮城県名取市生まれ。
東日本大震災前に仙台市からご主人の実家がある女川町へ移住。
今は亡きご主人のアメリカンなコレクションたちに囲まれた
ハイカーにも地元の方々にも愛されるアットホームなお店を切り盛りしています。

名取トレイルセンターの方からみちのく潮風トレイルのお話を聞く機会があり、取り組みを知りました。
歩いている方を見かけても、なぜ歩いているのか、どこに行くのか疑問に思っていました。店に訪れた際には、次はどこに行くの？今日はどの山を登ったの？などと話をするようになりました。
そんな中、私の子どもがみちのく潮風トレイルに関係する仕事に就き、心身ともに成長する姿を見て頑張れ！とエールを送っています。私は歩いたことがありませんが、歩く以外でも関われることができていると感じています。

今の場所にお店を構えたのは2020年頃です。女川は防潮堤がなく、道路ごと嵩上げしているので、標高が低いこのお店からでも海の景色が見えます。ここから見える崎山地区の山の形がハワイのダイヤモンドヘッドに似ていたことと、アメリカに憧れがあったことから、今は亡き主人が店名をダイヤモンドヘッドと名付けました。東日本大震災で被災後は、病院の敷地内でプレハブ営業した際の店名がおちゃっこクラブでした。病院帰りの憩いの場として8年以上営業し、どちらの店名も定着したため、併記しています。店内は雰囲気のあるアメリカン雑貨などであふれています。

毎年正月に行われる女川町の伝統芸能・獅子振りにも携わっており、獅子が各家をまわり新年のご挨拶と邪気を払う際に太鼓や笛などを鳴らす通称・鳴り物の役目を女性陣が担っています。まわる家の件数の減少や担い手の高齢化など、今後の伝統継承に不安もありますが、正月の風物詩としてできるかぎり継承していきたいと思っています。

お正月には、金華山からの定期船が女川に戻ってきた際、待ち構えていた獅子が乗船客の頭にパクッと噛みつくので、ハイカーのみなさまにも女川に根づく伝統芸能に触れてほしいなあ。



汗をかきつつ下山してきたハイカーに人気の名物のナガリタン。
明るい店主と賑やかで楽しいアメリカン雑貨たちが心地よく、
気付けば1時間2時間過ごしてた！なんてことがあるかも。
たっぷりビタミンチャージをするゼロデイ、ありかもしれませんよ。



挑戦する
若者たちに
恩返しを

なかの よしたか
中野 禎貴 さん

マミーストアー 社長

昭和44年、岩手県野田村生まれ。
叔父が昭和50年に創業したスーパーを継承。
店舗敷地内にてハイカーにテント場とトイレを提供している。

野田村観光協会から、ハイカーをサポートする施設「トレイルオアシス」としての協力をお願いされた時に「みちのく潮風トレイル」という言葉を初めて知りました。チェックリストを渡され、その中のテント場とトイレの提供ならできると、協力することになりました。

お店は震災の時に波を被り、店内が2mくらい浸水しました。すぐ隣を流れる川には対岸に歩いて渡れるほどの瓦礫が積み重なっていました。あの時はとにかく日々無我夢中で必死でしたね。店内の壁やシャッター、冷蔵庫などは、取引先が非常に協力してくれて、早くに修復することができました。その時は人の温かさを感じましたね。よそから来た大学生達若い方も手伝ってくれて、皆さんの力で復興することができました。

トレイルオアシスになって始めの頃に、一人でテント泊をしていた若い方が全線踏破したいと言っていたんです。チャレンジ出来るって、若いって羨ましい。この年になってくると出来る事が減り、時間も無く、体力も落ちてきます。トレイルを歩いたことがないので、時間があれば歩いてみたいですが、休みの日は疲れて寝てるだけなので、若い内に出来ることはやったほうがいいですね。

震災時に手伝ってくれた本人でなくても、大学生や若い年代の人たちへの恩返しになればと思い、テント場とトイレの提供は引き続き行っていきたいです。お店としても地域に根ざして地道に商売しつつ、そういう人達をこれからも応援していけたらいいですね。



品揃え豊富な食料品の他にも野菜の苗や雑誌も扱っています。
テント場とトイレは正面右側の裏手にあります。



参拝して清々しい気持ちで
蕎麦を食べに来て貰いたい

くわはら たけお
桑原 武夫 さん

観音茶屋東門 店長

昭和63年、青森県階上町生まれ。
進学で上京し7年前にUターン、
実家の神社と観音茶屋東門を継ぐ。

父親が病気になり実家の神社を継ぐため資格を取り7年前に東京からUターンしました。
元々継ぐ気はなかったので右も左もわかりませんでした。観音茶屋東門も当初は父親が蕎麦を打っていましたが打ち方の流れだけを見て学び、すべて自己流で出しています。
みちのく潮風トレイルとは階上町区間が開通した直後から関わりがあり、ハイカーの方にはお会計10%オフのサービスをしています。割引の表示はしていないためトレイルを歩いていることを申告してもらえたらと思います。また東門裏のスペースでテント泊が出来るよう、町役場と連携しています。役場経由での予約がほとんどですが、前日の営業時間内であれば直接お店に連絡いただいても構いません。
また境内の中には、今年の5月に自分の姉がオープンさせたカフェスペース「お休処でらした」があります。案内所も兼ねているので御祈禱受付や御守りをご希望される方にお出しすることが出来ます。
観音茶屋東門は神社にお参りされた方にお越しいただきたいと作ったお店なので、ぜひとも参拝後に立ち寄って欲しいです。清々しい気持ちでお蕎麦を食べることが出来ると思います！



大正7年に命名された「階上早生」は
青森県で唯一の奨励品種であり、
東門では桑原さん自己流の
打ちたて階上早生そばを食べることが
できます。

母・娘・孫、3代揃った
温かい場所がここにあります

にわ しずこ

庭 静子 さん

いつこ

衣津子 さん

かなん

佳南 さん

昭和24年階上町生まれ育ち。
洋野町へ嫁ぎ平成10年6月にはまなす亭を創業。

昭和50年洋野町生まれ育ち。

平成13年洋野町生まれ育ち。

写真左から衣津子さん・静子さん・佳南さん

1998年にオープンしたはまなす亭は東日本大震災で倒壊しました。震災当日は国道沿いにオープンしたばかりの2号店にスタッフ全員が居たため無事でした。震災直後は自衛隊など町の復興のためにすぐ駆けつけてくれましたが被害の大きい南側へ行ってもらい地元の力で復興しました。そして現在のお店は2012年にオープンすることができました。トレイルに関わるきっかけは当時環境省主催のワークショップに参加したことです。その時、各地区の面白い人を探そうという話が出ました。世話好きな人は必ず居るからと。はまなす亭にも笑えばめんこい子がいて、楽しかった・嬉しかったとってくれる人が多くなりました。寄って食事はもちろんしてもらいたいのと被災当時の写真を見て現在の防波堤の中にあるルートを実際に歩いて欲しいです。そうすることが本当の意味のみのく潮風トレイルだと思います。

静子さん:洋野町は防災の意識が高いんです。なぜ大きい被害がなかったのか、その理由を感じながら歩いて欲しいです。

衣津子さん:ここへ着いて美味しい物を食べた時に満足感が増す場所だと思っています。その土地の美味しいものを発見しながら歩いて貰いたいです。そしてまたうちのお店へ戻って来てくれたらいいなと思っています。

佳南さん:経験がなくスタートしているので調理やお客様へのおもてなしを日々勉強しながら頑張っています。キャンプ泊に疲れたら自由に使って欲しいのと、ゲストハウスを拠点として交流目的で来てくれると嬉しいです！



洋野町産の天然ホヤを「天然ホヤづくし膳」はホヤ好きにはたまらない逸品。ここだけの味とここだけにしかない交流を楽しんでいただければと思います！

縁を繋ぐ
トレイルよ
いつまでも

おおた さだじ よしこ
太田 定治・芳子 さん

魚定

昭和23年・30年、岩手県普代村・久慈市生まれ。
太田名部漁港のすぐそばで「魚定」を経営。
地元産の海鮮を使った料理が自慢です。

震災当時、お店にはお客さんが2組いたのですがすぐに避難させ、自分たちも近くの神社に避難しました。漁港の灯台よりも高い津波がきて、店の屋根が目の前を流れていった光景は忘れられないですね。津波が引いた後、魚の形をしたお店の看板が「助けて」と言っているような格好で消波ブロックに乗っているのを見つけた時、もう一度お店をやろう、と強く思いました。棚のお酒の多くは震災復興で全国から来てくださったお客さんのお土産です。

トレイルが開通して変化したことは、村に来る人が増えたことですね。人が歩くことで村の雰囲気が変わりました。それにいろんな人と出会えて、知り合いになりました。トレイルが縁でお店を手伝ってくれるようになった人もいますよ。

最近は外国人が多く歩いています。立ち寄る方はスマホで翻訳してくれたり、料理の写真を見せて注文してくれたりするので、英語が使えなくても心配ないですね。以前、外のテーブルで待っていた外国人ハイカーに料理を運ぶ時、夫婦そろって転んでしまったことがあるんです。とても心配してくれて、お店にあるのに、近くの自動販売機で飲み物を買って渡してくれました。人の優しさが心に沁みた良い思い出です。

ただ、今年はクマの目撃情報が村内放送された日に外国人の方がお店にいたんですが、英語で何と言えればいいか分からず、教えてあげられなかったのが残念でした。英語を勉強しないとね。

ハイカーは増えましたが、もっと若い人が歩いてくれたら嬉しいですね。

トレイルはこれからも長く続いてほしいです。

食堂もあと2年くらいは続けたいかな。



一番の人気は磯ラーメン。あっさりしたスープはホタテ等の魚介から出汁をとったこだわりの味。普代村の海の恵みが凝縮された一品です。

楽しんでくれたら
よろこんぶ♪

かみかんだ けいじ
上神田 敬二 さん

上神田精肉店 代表

昭和48年、岩手県普代村生まれ。
両親が昭和45年に創業した上神田精肉店を、料亭での9
年間の修行を経て、平成22年に事業継承。

両親が精肉店を始めた頃、この辺りは旅館が建ち並んでいて、旅人をよく見かけるような風景でした。私にとっては歩く人や旅人が来るのは、昔はこうだったなあと懐かしさを感じます。

トレイルが開通した頃は日本人が多かったのですが、今や外国人のほうが多いです。以前イギリス人が来た時に、これはきた！と思い、店の前の道は「アビーロード商店街」という名前がついている、と話したことがあったんです。でもウケなかった。また、オーストラリア人が来た時は、彼の話す内容がジョークなのか何なのかよく理解できず……うまく反応できませんでした。

最初は、日本に来る外国人にとっては、意思疎通がもどかしいくらいが良いんじゃないかと開き直っていました。でもそのうち楽しませたいという欲が出てくるんですよね。もうちょっと喋れていたら、面白かったな、と思ってもらえるような会話ができたと、と。今はその反省の繰り返しです。楽しませたい、普代村を紹介したいという意欲だけはあるので、相手によって臨機応変に対応しながら、その交流の瞬間を面白くするような英語を会得したいと思っています。

ハイカーには普代村で我々が暮らしている空気や匂いを感じてもらえればいいと思います。旅の一場面かもしれませんが、いい場所だったなあとか、あんな人いたなあとか思い出の1ページとして心に残れば嬉しいです。



店主のおすすめは普代村産の昆布を使用した昆布入りメンチカツ。
サクサクな衣にジューシーなお肉と昆布の触感が豊かな一品です。



三陸の潮風を 料理にこめて

かなざわ ひろし
金澤 博 さん

活魚 和風料理 かなざわ 店主

昭和32年、岩手県岩泉町生まれ。
東京で50年程飲食店を経営後、実家を改装し
令和2年に開業。

自分の人生の最終目標は地元に戻ってくることでした。

東京にいた頃は、三陸産のワカメを出すとお客さんが喜んでくれました。三陸の海産物は質がいい。ワカメ、ウニ、アワビなんかは最高峰。仕入れに行っていた築地でいつも見ていました。東京に出たからこそ地元の良さが身に染みて分かりましたね。

東京でやりきったと思って地元に戻り、実家を店に改装する時、一番最初にカウンターを自分で作っ
たんですよ。カウンター越しに料理を作って、嘘なくお客さんと向き合うことができる。東京にいた頃
からのこだわりです。せっかくここに来てくれたからには、ここのものを食べさせてあげたいと思って、
常に地元の旬の素材を使っています。

ある女性のハイカーにホヤとかウニをほんの少しつづだけ出したら、後日手紙が届いて「潮風トレイ
ルの灯台になってくれた。」と書いてありました。な～にが灯台だよって感じだけど、嬉しかったです
ね。トレイルはいろんな人との出会いのきっかけになっています。ハイカーに声をかけて何か教えるこ
ともあれば、逆に教えられることもあります。会話すると気持ちが明るくなるし、元気を貰えます。

三陸はワカメやウニ、ホヤの他にも様々な磯の魚の名産品があるし、空気も良い。とてもいいところ
だよ、ということを国籍問わずいろんな人に知ってほしいですね。そんな思いで今ここで、こうして料
理を作り続けています。



岩泉町小本でとれた魚と自家栽培の野菜を使った焼き魚定食。
海鮮丼や天丼も人気で、ハイカーにはサービスで1品つけてくれます。